

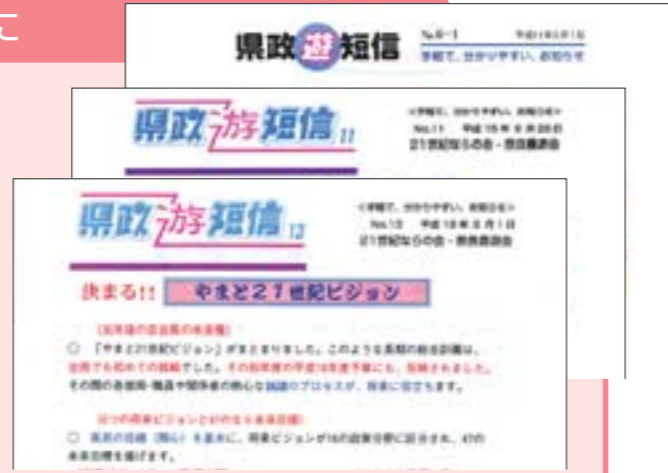
# VI 県政運営の基本姿勢・基本目標

知事に就任して以来一貫して、以下の6つの基本姿勢や基本目標を掲げて行政運営に努めてきました。

## 1 県民の信頼とふれあいを大切に

一期目以来一貫して、県政運営の基本姿勢の実現が最優先事項でした。

職員必携に「公正な判断」「誠実な対応」「明朗な手順」の3点を掲げ、「まほろば県政談話会」など県政参画の機会づくりや、パソコン作成の「県政遊短信」の発行等も含めて、広報広聴重視の「わかりやすい県政」を目指してまいりました。



## 2 「大きな河の流れ」



「切れ目のない県政」は、県政の基本と考えてきました。

教育、福祉、健康、産業、環境、治安、公共施設等幅広い分野にわたって、持続的な行政レベルを確保しつつ発展することが必要です。

このような考えのもと、「着実な前進」と「静かな変革」をモットーに県政運営に取り組みました。

## 3 「遊」のある奈良県づくり

一期目の選挙で提唱し、以来県政運営の基本コンセプトに据えてきた発想は、「遊」のある奈良県づくりでありました。

初当選したのは、まさにバブル経済が崩壊し、わが国の政治社会経済全般の激動が始まった頃でした。そのような環境の中で、「本当の豊かさ」「充実した時間」等を問いかける生活者の気持ちや、時代の要請に応える県政運営を目指したいと考え、その視点を「遊」の一字に託した発想を提唱しました。

さらに、この「遊」の発想を県政に反映させるべく、「遊」のある奈良県づくり検討委員会及び「遊」を語る懇談会(委員長、座長はいずれも紙野桂人氏(当時大阪大学工学部教授))で貴重なご意見をいただきました。



「遊」を語る懇談会

## 4 「遊」のコンセプトとビジョン

“ひとと自然にやさしく、ところに豊かさを”をコンセプトとする基本理念を定め、次の5点を基本方向とするビジョンとそれを達成する事業イメージをまとめていただきました(H4.12)。

「豊かさを高め、個性を発揮しよう」 「ゆとりとやすらぎを広めよう」 「開かれた交流社会をめざそう」  
「遊びごころを生かそう」 「みんなが考え、ともに行動しよう」

その後の時代の激動は予想を上回るものでしたが、15年間この発想を県政運営の多方面に生かすべく精一杯努めてまいりました。

今日、地域や家族の「心のきずな」が問題視されるまで、激動は深刻の度合を増しており、「遊」のころはさらに追求されるべき課題であり続けるのではないのでしょうか。



## 5 「世界に光る奈良県づくり」

「奈良県新総合計画」(10年計画:H8~H17)を策定し(H7)、その基本目標を「世界に光る奈良県づくり」と決めました。

いろいろな特徴で輝いていく奈良県の将来像を描き、夜空の星のように一つ一つが輝きを増しながら、次第に数々の地域の特徴を発掘し、あるいは、創造していく県政を構想しました。

この基本目標は、「やまと21世紀ビジョン」(H18.3策定)にも引き継がれています。



## 6 「関西の憩いのオアシス」



21世紀は、自然や人間性への回帰が強く求められている時代で、いよいよ奈良県が出番になると考えております。そのような時代に、奈良県に求められる役割のイメージは、「関西の憩いのオアシス」と考えています。このイメージに沿った施策も展開してまいりました。

最近、特に歴史文化や世界遺産等に関して、奈良県への追い風を感じています。